

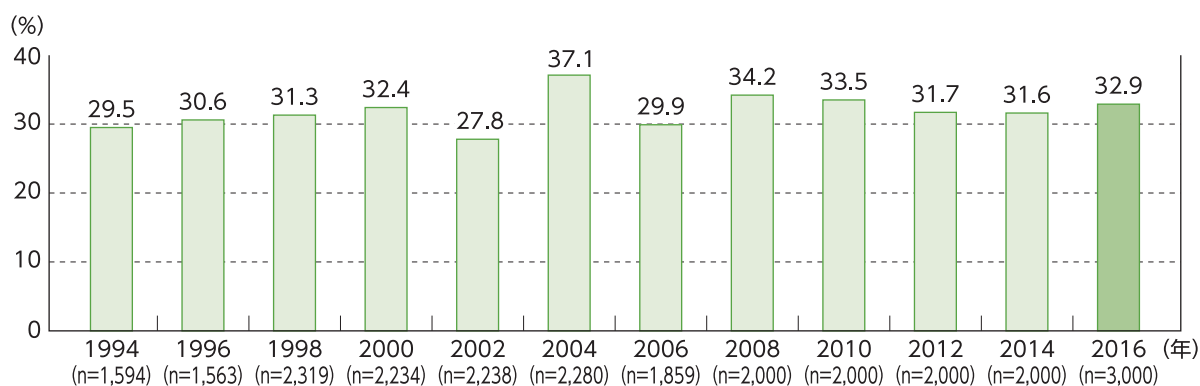
4 スポーツ観戦

4-1 直接スポーツ観戦状況

過去1年間に体育館・スタジアム等へ足を運んで直接スポーツを観戦した者は、全体の32.9%であった(図4-1)。2014年の31.6%と比較すると1.3ポイント上昇し

た。今回の結果から、過去1年間のわが国成人の直接スポーツ観戦人口は3,497万人と推計された。

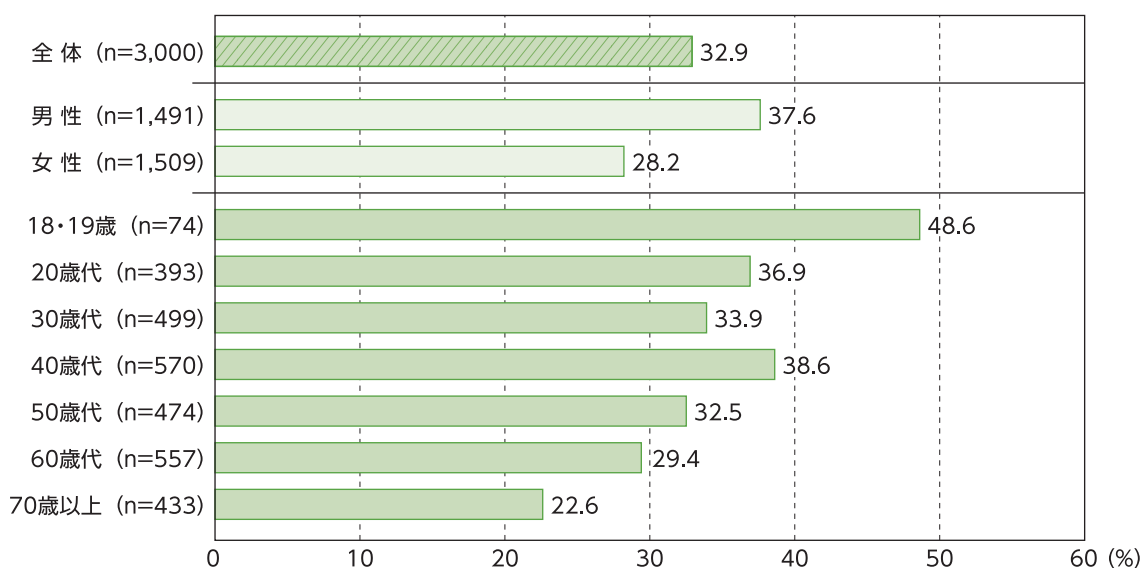
性別にみると、男性の観戦率は37.6%、女性の観戦率は28.2%と、男性が女性を9.4ポイント上回っており、この傾向は1994年に調査項目に追加して以来変わって



【図4-1】 直接スポーツ観戦率の年次推移

注) 2014年調査までは20歳以上を調査対象としているが、2016年調査は18・19歳を追加した。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016



【図4-2】 直接スポーツ観戦率(全体・性別・年代別)

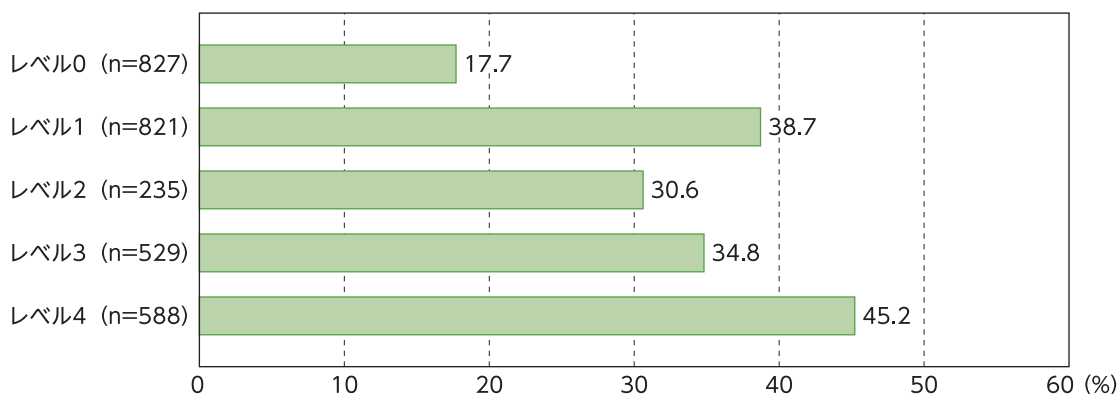
資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

いない(図4-2)。

年代別にみると、18・19歳の観戦率が48.6%と最も高い。次いで40歳代38.6%、20歳代36.9%、30歳代33.9%、50歳代32.5%、60歳代29.4%、70歳以上22.6%であった。20歳代以上をみると、40歳代の観戦率が最も高い傾向は過去の調査結果と同様である。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、最も高い観戦

率を示したのは「レベル4」の45.2%であった(図4-3)。次いで「レベル1」38.7%、「レベル3」34.8%、「レベル2」30.6%となり、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」の観戦率は17.7%と最も低い割合を示した。運動・スポーツ非実施者は直接観戦も低調であった。



【図4-3】直接スポーツ観戦率(レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

4-2 直接スポーツ観戦種目

直接スポーツ観戦の状況を種目別にみると、全体では「プロ野球(NPB)」の直接スポーツ観戦率が15.6%と最も高く、次いで「高校野球」5.5%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」5.3%、「マラソン・駅伝」3.9%となった(表4-1)。プロ野球が最も高く、続いて高校野球、Jリーグ、マラソン・駅伝が上位となる傾向は過去の調査結果と同様である。

観戦頻度では、「バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)」が年平均4.40回と最も多く、「バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)」3.98回、「F1やNASCARなど自動車レース」3.75回、「高校野球」3.21回、「サッカー(高校、大学、JFLなど)」3.20回と続く。一方、「大相撲」が1.15回で最も少なく、「フィギュアスケート」1.27回、「バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)」1.29回と続く。推計動員数では、「プロ野

球(NPB)」3,863万人が最も多く、「高校野球」1,878万人、「Jリーグ(J1、J2、J3)」1,762万人が続く。

性別にみると、男女ともに最も観戦率が高い種目は「プロ野球(NPB)」であった(表4-2)。それぞれ18.7%と12.5%であり、男性の観戦率は女性より6.2ポイント高い。男性の2位は「Jリーグ(J1、J2、J3)」7.4%とプロスポーツが続くが、女性は「マラソン・駅伝」4.4%であった。男女ともに3位は「高校野球」であり、男性7.1%、女性4.0%であった。

年代別にみると、すべての年代で「プロ野球(NPB)」の観戦率が最も高い(表4-3)。2位の種目は、18・19歳が「高校野球」、20歳代、30歳代、40歳代が「Jリーグ(J1、J2、J3)」50歳代「高校野球」、60歳代「マラソン・駅伝」、70歳以上「高校野球」であった。また、18・19歳から40歳代までは「サッカー(高校、大学、JFLなど)」が5位圏内に入り、50歳代以上では「大相撲」がランクインするなどの特徴がみられる。

今後の直接スポーツ観戦希望種目をたずねたところ、「プロ野球(NPB)」が31.0%と最も高く、次いで「フィギュアスケート」16.3%、「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」13.7%、「高校野球」13.6%、「大相撲」12.7%、「Jリーグ(J1、J2、J3)」11.9%となった(表4-4)。また、表4-4では観戦希望率の上位15種目を取り上げ、観戦希望率を「継続観戦希望(リピーター)率」と「新規観戦希望率」に区分して示した。すべての種目で継続観戦希

望(リピーター)率よりも新規観戦希望率が高い特徴が確認できるが、特に「プロ野球(NPB)」 「高校野球」 「Jリーグ(J1、J2、J3)」 「マラソン・駅伝」では、観戦希望に占める継続観戦希望(リピーター)率の割合が高い。上位15種目の推計観戦希望人口をみると、推計継続観戦希望(リピーター)人口は2,892万人、推計新規観戦希望人口は1億4,806万人であった。

【表4-1】種目別直接スポーツ観戦状況の推移(複数回答)

順位	観 戦 種 目	2016年 (n=3,000)				2014年 (n=2,000)			
		観戦率 (%)	① 推計観戦人口 (万人)	② 観戦頻度 (回/年)	③ 推計動員数 (①×②) (万人)	観戦率 (%)	④ 推計観戦人口 (万人)	⑤ 観戦頻度 (回/年)	⑥ 推計動員数 (④×⑤) (万人)
1	プロ野球(NPB)	15.6	1,658	2.33	3,863	15.8	1,640	2.29	3,756
2	高校野球	5.5	585	3.21	1,878	5.3	550	3.25	1,788
3	Jリーグ(J1、J2、J3)	5.3	563	3.13	1,762	5.5	571	3.18	1,816
4	マラソン・駅伝	3.9	415	1.42	589	4.8	498	1.28	637
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.4	255	3.20	816	2.3	239	5.48	1,310
6	アマチュア野球(大学、社会人など)	1.5	159	2.37	377	2.6	270	7.26	1,960
7	バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)	1.4	149	3.98	593	1.5	156	8.10	1,264
	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.4	149	4.40	656	0.7	73	2.00	146
9	プロゴルフ	1.3	138	1.80	248	1.5	156	1.45	226
	ラグビー	1.3	138	2.89	399	0.9	93	3.12	290
11	大相撲	1.2	128	1.15	147	0.8	83	1.07	89
	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.2	128	2.00	256	1.3	135	1.84	248
13	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	0.9	96	1.40	134	0.7	73	1.36	99
14	プロバスケットボール(bjリーグ)	0.8	85	2.36	201	1.0	104	2.11	219
15	F1やNASCARなど自動車レース	0.5	53	3.75	199	0.3	31	1.67	52
	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	0.5	53	1.29	68	—	—	—	—
	フィギュアスケート	0.5	53	1.27	67	0.4	42	1.00	42

注1) 2016年の推計観戦人口: 18歳以上人口の106,300,916人(2015年1月1日現在の住民基本台帳より)に観戦率を乗じて算出。

注2) 2014年の推計観戦人口: 成人人口の103,811,681人(2013年3月31日現在の住民基本台帳より)に観戦率を乗じて算出。

注3) 2016年調査から観戦種目を一部変更したため、経年比較が不可能な項目は「—」で示した。

注4) 2014年調査までは20歳以上を調査対象としているが、2016年調査は18・19歳を追加した。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

【表4-2】種目別直接スポーツ観戦率(性別:複数回答)

男 性 (n=1,491)			女 性 (n=1,509)		
順位	観 戦 種 目	観戦率(%)	順位	観 戦 種 目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	18.7	1	プロ野球(NPB)	12.5
2	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.4	2	マラソン・駅伝	4.4
3	高校野球	7.1	3	高校野球	4.0
4	マラソン・駅伝	3.4	4	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.2
5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.8	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.9
6	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.0	6	大相撲	1.6
	プロゴルフ	2.0	7	バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)	1.5
8	ラグビー	1.8		バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.5
9	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.6	9	アマチュア野球(大学、社会人など)	1.1
10	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	1.4	10	フィギュアスケート	0.9

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

【表4-3】種目別直接スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=74)			20歳代 (n=393)			30歳代 (n=499)			40歳代 (n=570)		
順位	観 戦 種 目	観戦率(%)	順位	観 戦 種 目	観戦率(%)	順位	観 戦 種 目	観戦率(%)	順位	観 戦 種 目	観戦率(%)
1	プロ野球(NPB)	20.3	1	プロ野球(NPB)	18.6	1	プロ野球(NPB)	15.6	1	プロ野球(NPB)	13.9
2	高校野球	16.2	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.1	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	9.2	2	Jリーグ(J1、J2、J3)	7.7
3	サッカー(高校、大学、JFLなど)	9.5	3	高校野球	4.6	3	高校野球	2.8	3	高校野球	6.0
4	Jリーグ(J1、J2、J3)	6.8	4	サッカー(高校、大学、JFLなど)	3.1		マラソン・駅伝	2.8	4	マラソン・駅伝	4.2
5	アマチュア野球(大学、社会人など)	4.1	5	アマチュア野球(大学、社会人など)	2.8	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	2.4	5	サッカー(高校、大学、JFLなど)	4.0
	バスケットボール(高校、大学、NBL、WJBLなど)	4.1									
	バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	4.1									
50歳代 (n=474)			60歳代 (n=557)			70歳以上 (n=433)					
順位	観 戦 種 目	観戦率(%)	順位	観 戦 種 目	観戦率(%)	順位	観 戦 種 目	観戦率(%)			
1	プロ野球(NPB)	16.0	1	プロ野球(NPB)	14.4	1	プロ野球(NPB)	15.5			
2	高校野球	6.1	2	マラソン・駅伝	5.7	2	高校野球	6.9			
3	マラソン・駅伝	5.7	3	高校野球	5.2	3	マラソン・駅伝	3.7			
4	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.8	4	Jリーグ(J1、J2、J3)	3.6	4	プロゴルフ	2.3			
5	大相撲	2.1	5	大相撲	3.1	5	大相撲	1.2			
	プロゴルフ	2.1									

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

【表4-4】種目別直接スポーツ観戦希望状況(複数回答:n=3,000)

順位	観 戦 種 目	観戦希望率 (%)	継続観戦希望 (リピーター)率 (%)	新規観戦 希望率 (%)	推計観戦 希望人口 (万人)	推計継続観戦 希望(リピーター) 人口(万人)	推計新規 観戦希望 人口(万人)
1	プロ野球(NPB)	31.0	12.1	18.8	3,295	1,286	1,998
2	フィギュアスケート	16.3	0.5	15.8	1,733	53	1,680
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	13.7	0.8	12.9	1,456	85	1,371
4	高校野球	13.6	3.9	9.7	1,446	415	1,031
5	大相撲	12.7	0.9	11.8	1,350	96	1,254
6	Jリーグ(J1、J2、J3)	11.9	3.6	8.3	1,265	383	882
7	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	9.7	0.3	9.4	1,031	32	999
8	プロテニス	9.2	0.3	8.9	978	32	946
9	海外プロサッカー(欧州、南米など)	7.6	0.1	7.5	808	11	797
10	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	7.5	0.2	7.3	797	21	776
11	マラソン・駅伝	7.0	2.0	5.0	744	213	532
	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	7.0	0.0	7.0	744	0	744
13	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	6.9	1.0	5.9	733	106	627
14	プロゴルフ	6.3	1.0	5.3	670	106	563
15	F1やNASCARなど自動車レース	6.2	0.5	5.7	659	53	606
注)推計観戦希望人口:18歳以上人口の106,300,916人(2015年1月1日現在の住民基本台帳より)に観戦希望率を乗じて算出。						2,892	14,806

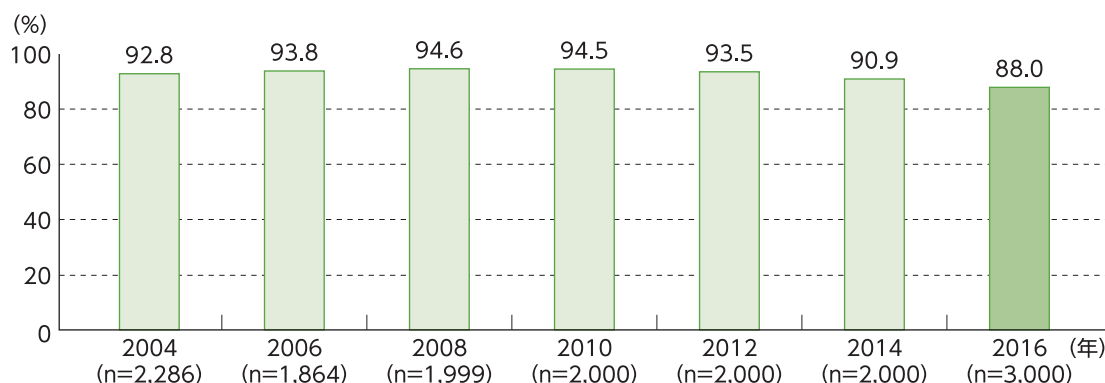
資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

4-3 テレビによるスポーツ観戦状況

過去1年間のテレビでのスポーツ観戦状況をたずねたところ、観戦を行った者は全体の88.0%であった(図4-4)。2014年調査の90.9%と比較して2.9ポイント減少

した。テレビによるスポーツ観戦は2008年調査から減少が続いており、今回はじめて9割を切る結果となった。今回の結果から、過去1年間のわが国成人のテレビスポーツ観戦人口は9,354万人と推計された。

性別にみると、男性のテレビ観戦率は89.6%、女性は



【図4-4】テレビによるスポーツ観戦率の年次推移

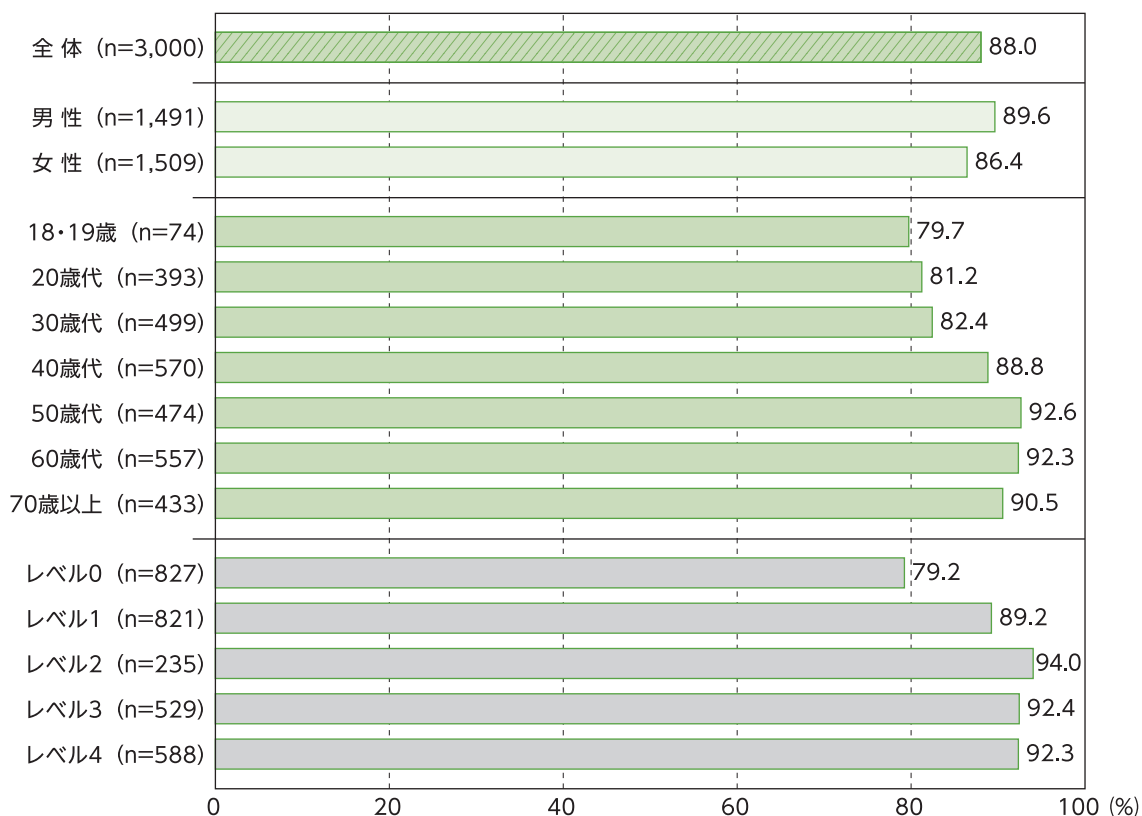
注) 2014年調査までは20歳以上を調査対象としているが、2016年調査は18・19歳を追加した。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

86.4%であり、男性が女性を3.2ポイント上回っている(図4-5)。この傾向は過去の調査と同様である。

年代別にみると、50歳代以上が90%を超えているのに対して、18・19歳から40歳代までは90%未満であり、特に若年層におけるテレビ観戦率が低くなっている。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、過去1年間にまったく運動・スポーツを行わなかった「レベル0」が79.2%と最も低く、「レベル1」も89.2%と他のレベルよりも観戦率がやや低い結果となった。



【図4-5】テレビによるスポーツ観戦率(全体・性別・年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

4-4 テレビによるスポーツ観戦種目

過去1年間にテレビで観戦した種目は、直接観戦と同様に、「プロ野球(NPB)」が53.8%と最も高く、次いで「高校野球」48.4%、「フィギュアスケート」46.2%、「サッカー日本代表試合(五輪代表含む)」45.3%、「マラソン・駅伝」43.2%であった(表4-5)。また、今回新たに追加した「バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)」が42.7%で6位に入っている。2014年調査と比較すると、上位の中では「フィギュアスケート」が57.4%から46.2%へと11.2ポイント減少し、高校野球と順位が入れ替わる

結果となった。その他、2014年は19.0%で13位の「プロテニス」が今回の調査では36.5%となり、8位に順位を上げている。

性別にみると、ほとんどの種目で女性よりも男性が高い観戦率を示した。特に「プロ野球(NPB)」(男性64.9%、女性42.9%)、「格闘技(ボクシング、総合格闘技など)」(男性30.7%、女性9.1%)、「メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)」(男性29.6%、女性9.9%)、「プロゴルフ」(男性31.7%、女性15.4%)、「Jリーグ(J1、J2、J3)」(男性31.7%、女性19.0%)は顕著に男性の値が高かった。一方、「フィギュアスケート」(男性33.2%、女性59.1%)、「バ

レーボール日本女子代表試合（火の鳥NIPPON）」（男性38.4%、女性47.1%）、「バレーボール日本代表試合（龍神NIPPON）」（男性30.9%、女性39.4%）は女性の値が高かった。

年代別にみると、30歳代を除くすべての年代で「プロ野球（NPB）」が1位という結果であった（表4-6）。18・19歳から40歳代までは「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」や「バレーボール日本女子代表試合（火の鳥NIPPON）」が上位に入っているが、50歳代以降は「マラソン・駅伝」「大相撲」が上位となり、年代による人気種目の特徴がみとれる。

今後のテレビによるスポーツ観戦希望種目をたずねたところ、「プロ野球（NPB）」が48.0%で最も高かった（表4-7）。次いで「高校野球」43.4%、「フィギュアスケート」41.7%、「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」41.6%、

同率で「マラソン・駅伝」「バレーボール日本女子代表試合（火の鳥NIPPON）」37.2%となった。前回の2014年調査で5位の「サッカー女子日本代表試合（なでしこジャパン）」は39.0%から26.9%に減少し、10位に順位を落としている。

表4-7ではテレビ観戦希望率の上位15種目を取り上げ、観戦希望率を「継続観戦希望（リピーター）率」と「新規観戦希望率」に区分して示した。直接観戦とは逆で、すべての種目で新規観戦希望率よりも継続観戦希望（リピーター）率が高い特徴が確認できるが、「サッカー日本代表試合（五輪代表含む）」「メジャーリーグ（アメリカ大リーグ）」「プロテニス」は、他の種目に比べて新規観戦希望率が高い。上位15種目の推計観戦希望人口をみると、推計継続観戦希望（リピーター）人口は4億7,124万人、推計新規観戦希望人口は2,754万人であった。

【表4-5】テレビによる種目別スポーツ観戦率（全体・性別：複数回答）

全 体 (n=3,000)			男 性 (n=1,491)			女 性 (n=1,509)		
順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)	順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)	順位	観 戦 種 目	観戦率 (%)
1	プロ野球 (NPB)	53.8	1	プロ野球 (NPB)	64.9	1	フィギュアスケート	59.1
2	高校野球	48.4	2	高校野球	53.5	2	バレーボール日本女子代表試合 (火の鳥NIPPON)	47.1
3	フィギュアスケート	46.2	3	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	51.0	3	マラソン・駅伝	43.7
4	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	45.3	4	大相撲	42.9	4	高校野球	43.3
5	マラソン・駅伝	43.2	5	マラソン・駅伝	42.6	5	プロ野球 (NPB)	42.9
6	バレーボール日本女子代表試合 (火の鳥NIPPON)	42.7	6	バレーボール日本女子代表試合 (火の鳥NIPPON)	38.4	6	サッカー日本代表試合 (五輪代表含む)	39.6
7	大相撲	38.0	7	プロテニス	37.2	7	バレーボール日本代表試合 (龍神NIPPON)	39.4
8	プロテニス	36.5	8	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	33.3	8	プロテニス	35.9
9	バレーボール日本代表試合 (龍神NIPPON)	35.2	9	フィギュアスケート	33.2	9	大相撲	33.1
10	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	30.9	10	Jリーグ (J1、J2、J3)	31.7	10	サッカー日本女子代表試合 (なでしこジャパン)	28.5
11	Jリーグ (J1、J2、J3)	25.3		プロゴルフ	31.7	11	Jリーグ (J1、J2、J3)	19.0
12	プロゴルフ	23.5	12	バレーボール日本代表試合 (龍神NIPPON)	30.9	12	プロゴルフ	15.4
13	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	19.9	13	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	30.7	13	ラグビー	14.0
14	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	19.7	14	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	29.6	14	メジャーリーグ (アメリカ大リーグ)	9.9
15	ラグビー	19.0	15	ラグビー	24.1	15	格闘技 (ボクシング、総合格闘技など)	9.1
	テレビで観戦した種目はない	12.0		テレビで観戦した種目はない	10.4		テレビで観戦した種目はない	13.6

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

【表4-6】テレビによる種目別スポーツ観戦率(年代別:複数回答)

18・19歳 (n=74)			20歳代 (n=393)			30歳代 (n=499)			40歳代 (n=570)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	高校野球	39.2	1	プロ野球(NPB)	47.8	1	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	47.3	1	プロ野球(NPB)	49.8
	プロ野球(NPB)	39.2	2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	41.0	2	プロ野球(NPB)	44.9	2	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	48.1
3	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	32.4	3	高校野球	38.9	3	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	40.7	3	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	46.8
	フィギュアスケート	32.4	4	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	35.9	4	フィギュアスケート	40.5	4	高校野球	45.4
5	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	29.7	5	フィギュアスケート	28.0	5	高校野球	35.7	5	フィギュアスケート	44.9

50歳代 (n=474)			60歳代 (n=557)			70歳以上 (n=433)		
順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)	順位	観戦種目	観戦率 (%)
1	プロ野球(NPB)	55.3	1	プロ野球(NPB)	62.8	1	プロ野球(NPB)	64.2
2	高校野球	54.4	2	マラソン・駅伝	60.7	2	大相撲	62.8
3	フィギュアスケート	53.0	3	大相撲	58.0	3	高校野球	59.4
4	マラソン・駅伝	48.5	4	フィギュアスケート	57.3	4	マラソン・駅伝	56.8
5	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	48.1	5	高校野球	56.9	5	フィギュアスケート	52.0

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

【表4-7】テレビによる種目別スポーツ観戦希望状況(複数回答: n=3,000)

順位	観戦種目	観戦希望率 (%)	継続観戦希望(リピーター)率 (%)	新規観戦希望率 (%)	推計観戦希望人口(万人)	推計継続観戦希望(リピーター)人口(万人)	推計新規観戦希望人口(万人)
1	プロ野球(NPB)	48.0	46.3	1.7	5,102	4,922	181
2	高校野球	43.4	41.6	1.9	4,613	4,422	202
3	フィギュアスケート	41.7	39.8	1.9	4,433	4,231	202
4	サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	41.6	39.5	2.1	4,422	4,199	223
5	バレーボール日本女子代表試合(火の鳥NIPPON)	37.2	35.4	1.8	3,954	3,763	191
	マラソン・駅伝	37.2	35.9	1.3	3,954	3,816	138
7	プロテニス	32.5	30.5	2.0	3,455	3,242	213
8	大相撲	32.4	31.2	1.2	3,444	3,317	128
9	バレーボール日本代表試合(龍神NIPPON)	31.0	29.3	1.7	3,295	3,115	181
10	サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	26.9	25.3	1.6	2,859	2,689	170
11	Jリーグ(J1、J2、J3)	22.1	20.9	1.2	2,349	2,222	128
12	プロゴルフ	20.2	19.4	0.9	2,147	2,062	96
13	メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	19.7	16.6	3.2	2,094	1,765	340
14	格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	18.3	16.7	1.5	1,945	1,775	159
15	ラグビー	16.8	14.9	1.9	1,786	1,584	202
注) 推計観戦希望人口: 18歳以上人口の106,300,916人(2015年1月1日現在の住民基本台帳より)に観戦希望率を乗じて算出。						47,124	2,754

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016